

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.7.5-7.11

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

5日 月曜

出エジプト

34:27 主はモーセに仰せられた。「これらのことばを書きしるせ。わたしはこれらのことばによって、あなたと、またイスラエルと契約を結んだのである。」

34:28 モーセはそこに、四十日四十夜、主とともにいた。彼はパンも食わず、水も飲まなかった。そして、彼は石の板に契約のことば、十のことばを書きしるした。

34:29 それから、モーセはシナイ山から降りて来た。モーセが山を降りて来たとき、その手に二枚のあかしの石の板を持っていた。彼は、主と話したので自分の顔のはだが光を放ったのを知らなかった。

34:30 アロンとすべてのイスラエル人はモーセを見た。なんと彼の顔のはだが光を放つてはないか。それで彼らは恐れて、彼に近づけなかった。

34:31 モーセが彼らを呼び寄せたとき、アロンと会衆の上に立つ者がみな彼のところに戻って来た。それでモーセは彼らに話しかけた。

34:32 それから後、イスラエル人全部が近寄って来たので、彼は主がシナイ山で彼に告げられたことを、ことごとく彼らに命じた。

34:33 モーセは彼らと語り終えたとき、顔におおいを掛けた。

34:34 モーセが主の前には行って行って主と話するときには、いつも、外に出るときまで、おおいはずしていた。そして出て来ると、命じられたことをイスラエル人に告げた。

34:35 イスラエル人はモーセの顔を見た。まことに、モーセの顔のはだは光を放った。モーセは、主と話するためには行って行くまで、



自分の顔におおいを掛けていた。

主に従う者の少ない状況にあっては、モーセのようなとりなし手が必要です。それは単に耳障りの良いことば、人々の喜ぶことばを語るものではありません。主のみこころを知り、そして語り、その上でのとりなしです。

主はそのような人には、主の栄光を付与してください。モーセがまさにそのようであって、「彼は、主と話したので自分の顔のはだが光を放った」とあります。主は本当のとりなし手を尊重してください。

モーセのように、神と人を取り持つようになりましょう。また伝道のためにも、またクリスチャンを育てるためにも、主の栄光によって変えられてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 6日 火曜

出エジプト

35:1 モーセはイスラエル人の全会衆を集めて彼らに言った。「これは、主が行なえと命じられたことばである。

35:2 六日間は仕事をしてもよい。しかし、七日目には、主の聖なる全き休みの安息を守らなければならない。この日に仕事をする者は、だれでも殺されなければならない。

35:3 安息の日には、あなたがたのどの住まいのどこでも、火をたいてはならない。」

35:4 モーセはイスラエル人の全会衆に告げて言った。「これは、主が命じて仰せられたことである。

35:5 あなたがたの中から主への奉納物を受け取りなさい。すべて、心から進んでささげる者に、主への奉納物を持って来させなさい。すなわち、金、銀、青銅、

35:6 青色、紫色、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、

35:7 赤くぬめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカンヤ材、

35:8 燈油、そそぎの油とかおりの高い香のための香料、

35:9 エポデや胸当てにはめ込むしまめのうや宝石である。

35:10 あなたがたのうちの心に知恵のある者は、みな来て、主が命じられたものをすべて造らなければならない。

35:11 幕屋、その天幕と、そのおおい、その留め金とその板、その横木、その柱と、その台座、

35:12 箱と、その棒、『贖いのふた』とおおいの垂れ幕、

35:13 机と、その棒とそのすべての用具と供



えのパン、

35:14 燈火のための燭台と、その用器ととしび皿と、燈火用の油、

35:15 香の壇と、その棒とそそぎの油とかおりの高い香と幕屋の入口につける入口の垂れ幕、

35:16 全焼のいけにえの祭壇とそれに付属する青銅の格子、その棒とそのすべての用具、洗盤と、その台、

35:17 庭の掛け幕、その柱とその台座と庭の門の垂れ幕、

35:18 幕屋の釘と庭の釘と、そのひも、

35:19 聖所で仕えるための式服、すなわち、祭司アロンの聖なる装束と、祭司として仕える彼の子らの装束である。」

安息日とは主の主権を認めて主を第一にする日です。火は生活に欠かせないものですが、主を第一にする事のほうが重要であると、主は言われます。安息日は、創造を主が休まれたことから来ています。それは主が造られた世界が非常に良かったからです。またそれはエジプトから救い出されたことを喜ぶ日にもなってゆきました。このように安息とは神の世界を喜び、救いを喜ぶ日でもあります。

新約の今は安息日を守るとは礼拝をすることです。それをないがしろにすることは、すなわちたましいを殺すことなのです。また神様との断絶をもたらしてしまいます。

主を愛する心は礼拝から始まります。そのような者たちは、「心から進んで」主にささげ、主の臨在を表す作業に用いられました。私たちも主を第一にする生き方を、安息日の礼拝から初めて、主を表す生き方をしてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 水曜

出エジプト



35:20 イスラエル人の全会衆は、モーセの前から立ち去った。

35:21 感動した者と、心から進んでする者とはみな、会見の天幕の仕事のため、また、そのすべての作業のため、また、聖なる装束のために、主への奉納物を持って来た。

35:22 すべて心から進んでささげる男女は、飾り輪、耳輪、指輪、首飾り、すべての金の飾り物を持って来た。金の奉納物を主にささげた者はみな、そうした。

35:23 また、青色、紫色、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮を持っている者はみな、それを持って来た。

35:24 銀や青銅の奉納物をささげる者はみな、それを主への奉納物として持って来た。アカシヤ材を持っている者はみな、奉仕のすべての仕事のため、それを持って来た。

35:25 また、心に知恵のある女もみな、自分の手で紡ぎ、その紡いだ青色、紫色、緋色の撚り糸、それに亜麻布を持って来た。

35:26 感動して、知恵を用いたいと思った女たちはみな、やぎの毛を紡いだ。

35:27 上に立つ者たちはエポデと胸当てにはめるしまめのうや宝石を持って来た。

35:28 また、燈火、そそぎの油、かおりの高い香のためのバルサム油とオリーブ油とを持って来た。

35:29 イスラエル人は、男も女もみな、主がモーセを通して、こうせよと命じられたすべての仕事のために、心から進んでささげたのであって、彼らはそれを進んでささげるささげ物として主に持って来た。

主の臨在を表す幕屋をつくるためには、主のくださる感動が必要です。自分で「心から進んで」ささげる者が主のお役に立てるのです。そのような人を主は求めておいでになり、また用いてくださいます。” どうして私だけが…”と損をしたように思う人は、心から進んでささげてはいない人です。

彼らは自分が持っているものをささげました。主のすばらしさを表すために役に立てるものを、すでに私たちには与えられているのではないのでしょうか。与えられているもの、賜物、状況でもきつと十分に主のお役に立てるでしょうから、まずは感謝して受け直し、それをお役に立てましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 木曜

出エジプト

35:30 モーセはイスラエル人に言った。
「見よ。主はユダ部族のフルの子であるウリの子ベツアルエルを名ざして召し出し、
35:31 彼に、知恵と英知と知識とあらゆる仕事において、神の霊を満たされた。
35:32 それは彼が金や銀や青銅の細工を巧みに設計し、
35:33 はめ込みの宝石を彫刻し、木を彫刻し、あらゆる設計的な仕事をさせるためである。
35:34 また、彼の心に人を教える力を授けられた。彼とダン部族のアヒサマクの子オホリアブとに、そうされた。
35:35 主は彼らをすぐれた知恵で満たされた。それは彼らが、あらゆる仕事と巧みな設計をなす者として、彫刻する者、設計する者、および、青色、紫色、緋色の撚り糸や亜麻布で刺繍する者、また機織りする者の仕事を成し遂げるためである。
36:1 ベツアルエルとオホリアブ、および、聖所の奉仕のすべての仕事をするのできる知恵と英知を主に与えられた、心に知恵のある者はみな、主が命じられたすべてのことを成し遂げなければならない。」
36:2 モーセは、ベツアルエルとオホリアブ、および、主が知恵を授けられた、心に知恵のある者すべて、すなわち感動して、進み出てその仕事をしたいと思う者すべてを、呼び寄せた。
36:3 彼らは、聖所の奉仕の仕事をするためにイスラエル人が持って来たすべての奉納物をモーセから受け取った。しかしイスラエル人は、なおも朝ごとに、進んでささげるささげ物を彼のところに持って来た。



36:4 そこで、聖所のすべての仕事をしてきた、知恵のある者はみな、それぞれ自分たちがしていた仕事から離れてやって来て、
36:5 モーセに告げて言った。「民は幾たびも、持って来ています。主がせよと命じられた仕事のために、あり余る奉仕です。」
36:6 それでモーセは命じて、宿営中にふれさせて言った。「男も女も、もはや聖所の奉納物のための仕事をしないように。」こうして、民は持って来ることをやめた。
36:7 手持ちの材料は、すべての仕事をするのに十分であり、あり余るほどであった。

知恵と英知と知識とあらゆる仕事の能力も神の霊によって与えられるものです。”能力や成功は欲しい。”と、誰でも思います。しかしそれらを、主のためには使わないのであれば、主は何のために与えたのか…と言われるでしょう。それは矛盾しています。それでは聖霊様は、その人から離れてしまいます。聖霊様が与え主です。

仕事も主のため、主の栄光を表すためです。家事も勉強も、また子育てや人間関係もそうです。そして主がくださった能力ですから、主のために質の良いものをささげましょう。そのほうが人生を楽しめるはずです。主の思いに沿っているからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 金曜

出エジプト

36:8 仕事に携わっている者のうち、心に知恵のある者はみな、幕屋を十枚の幕で造った。撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の撚り糸で作り、巧みな細工でケルビムを織り出した。

36:9 幕の長さは、おのおの二十八キュビト、幕の幅は、おのおの四キュビト、幕はみな同じ寸法とした。

36:10 五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、また、他の五枚の幕も互いにつなぎ合わせた。

36:11 そのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁に青いひもの輪をつけた。他のつなぎ合わせたものの端にある幕の縁にも、そのようにした。

36:12 その一枚の幕に輪五十個をつけ、他のつなぎ合わせた幕の端にも輪五十個をつけ、その輪を互いに向かい合わせにした。

36:13 そして、金の留め金五十個を作り、その留め金で、幕を互いにつなぎ合わせて、一つの幕屋にした。

36:14 また、幕屋の上に掛ける天幕のために、やぎの毛の幕を作った。その幕を十一枚作った。

36:15 その一枚の幕の長さは三十キュビト。その一枚の幕の幅は四キュビト。その十一枚の幕は同じ寸法とした。

36:16 その五枚の幕を一つにつなぎ合わせ、また、ほかの六枚の幕を一つにつなぎ合わせ、

36:17 そのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁に、輪五十個をつけ、他のつなぎ合わせた幕の縁にも輪五十個をつけた。

36:18 また、青銅の留め金五十個を作り、その天幕をつなぎ合わせて、一つにした。



36:19 また、天幕のために、赤くなめした雄羊の皮のおおいと、じゅごんの皮でその上に掛けるおおいとを作った。

36:20 さらに、幕屋のためにアカシヤ材で、まっすぐに立てる板を作った。

36:21 板一枚の長さは十キュビト、板一枚の幅は一キュビト半であった。

36:22 板一枚ごとに、はめ込みのほぞ二つを作った。幕屋の板、全部にこのようにした。

36:23 幕屋のために板を作った。南側に板二十枚。

36:24 その二十枚の板の下に銀の台座四十個を作った。一枚の板の下に、二つのほぞに二個の台座、ほかの板の下にも、二つのほぞに二個の台座を作った。

36:25 幕屋の他の側、すなわち、北側に板二十枚を作った。

36:26 銀の台座四十個。すなわち、一枚の板の下に二個の台座。ほかの板の下にも二個の台座。

36:27 幕屋のうしろ、すなわち、西側に板六枚を作った。

36:28 幕屋のうしろの両隅のために、板二枚を作った。

36:29 底部では重なり合い、上部では一つの環で一つに合わせるようにした。二枚とも、そのように作った。それが両隅であった。

36:30 板は八枚、その銀の台座は十六個、すなわち一枚の板の下に、二つずつ台座があった。

36:31 ついで、アカシヤ材で横木を作った。すなわち、幕屋の一方の側の板のために五本、

36:32 幕屋の他の側の板のために横木五本、幕屋のうしろ、すなわち西側の板のために

横木五本を作った。

36:33 それから、板の中間を、端から端まで通る中央横木を作った。

36:34 板には金をかぶせ、横木を通す環を金で作った。横木には金をかぶせた。

36:35 ついで、青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布で、垂れ幕を作った。これに巧みな細工でケルビムを織り出した。

36:36 そのために、アカシヤ材の四本の柱を作り、それに金をかぶせた。柱の鉤は金であった。そしてこの柱のために銀の四つの台座を鑄造した。

36:37 ついで、天幕の入口のために、青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布で、刺繍をした幕を作った。

36:38 五本の柱と、その鉤を作り、その柱の頭部と帯輪に金をかぶせた。その五つの台座は青銅であった。

荒野に行くイスラエルは、移動可能なものを造る必要があり、それは面倒な作業でしたが、不満を言う者はなく従いました。

幕屋の中は多色でケルビムが織り出されて美しいものでしたが、外側は動物の皮で地味でした。イエス様もまた教会も同じで、神を表すものは外面よりもその内側が大切です。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



37:1 ベツァルエルはアカシヤ材で一つの箱を作った。長さは二キュビト半、幅は一キュビト半、高さは一キュビト半。
37:2 その内側と外側を純金でかぶせ、その回りに金の飾り縁を作った。
37:3 箱のために、金の環四つを鑄造し、その四隅の基部に取りつけた。一方の側に二つの環を、他の側にほかの二つの環を取りつけた。
37:4 また、アカシヤ材で棒を作り、これを金でかぶせ、
37:5 その棒を、箱をかつぐために箱の両側にある環に通した。
37:6 ついで彼は、純金で「贖いのふた」を作った。長さは二キュビト半、幅は一キュビト半。
37:7 また、槌で打って作った二つの金のケルビムを「贖いのふた」の両端に作った。
37:8 一つのケルブを一方の端に、他のケルブを他方の端に。ケルビムを「贖いのふた」の一部として、その両端に作った。
37:9 ケルビムは翼を上の方に伸ば広げ、その翼で「贖いのふた」をおおい、ケルビムは互いに向かい合い、その顔は「贖いのふた」に向いていた。
37:10 彼は、アカシヤ材で、一つの机を作った。長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一キュビト半。
37:11 これを純金でかぶせ、その回りに金の飾り縁を作った。
37:12 その回りに、手幅のわくを作り、そのわくの回りに金の飾り縁を作った。
37:13 その机のために、金の環四個を鑄造し、その四本の足のところの四隅に、その環を取

りつけた。

37:14 その環はわくのわきにつけ、机をかつぐ棒を入れる所とした。

37:15 アカシヤ材で、机をかつぐ棒を作り、これを金でかぶせた。

37:16 さらに、机の上の器、すなわち、注ぎのささげ物を注ぐための皿や、ひしゃく、水差しや、びんを純金で作った。

この箱は契約の箱と言われるものです。神様がその契約のゆえにイスラエルとともにおられたのです。その神の臨在を表すのが契約の箱です。また机は神様にささげものをするため、ここで罪の赦しのために動物をささげました。で

このように幕屋のものは神様の臨在と礼拝を表すのですが、そのことは、新約になって初めて分かったことです。私たちはそれを知ることができませんが、旧約の彼らはわからなくても主の命令に喜んで従いました。自分の判断よりも主ご自身を愛して信頼していたからです。

私たちは神様の御心に従うというよりも、自分自身で判断して、納得しなければ従わないという態度が残っているかもしれません。主を信頼して、自分の判断よりも主に従いましょう。そのような生き方をしてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶11日 日曜

出エジプト

37:17 また彼は、純金で燭台を作った。その燭台は、槌で打って作り、その台座と、支柱と、がくと、節と、花卉とで一個の燭台とした。

37:18 六つの枝をそのわきから、すなわち、燭台の三つの枝を一方のわきから、燭台の他の三つの枝を他のわきから出した。

37:19 一方の一つの枝に、アーモンドの花の形をした節と花卉のある三つのがくを、また、他方の一つの枝にも、アーモンドの花の形をした節と花卉のある三つのがくをつけた。こうして燭台から出る六つの枝をみな、そのようにした。

37:20 燭台の支柱には、アーモンドの花の形をした節と花卉のある四つのがくをつけた。

37:21 それから出る一對の枝の下に一つの節、それから出る次の一對の枝の下に一つの節、それから出るその次の一對の枝の下に一つの節。このように六つの枝が燭台から出ていた。

37:22 それらの節と枝とは燭台と一体にし、その全体は一つの純金を打って作った。

37:23 また、そのともしび皿七つと、その心切りばさみと、心取り皿とを純金で作った。

37:24 すなわち、純金一タラントで、燭台とそのすべての用具を作った。

37:25 彼は、アカシヤ材で香の壇を作った。長さは一キュビト、幅は一キュビトの四角形で、高さは二キュビト。これの一部として角をつけた。

37:26 そして、上面と回りの側面と角を純金でかぶせ、その回りに金の飾り縁を作った。

37:27 その壇のために、その飾り縁の下の両わきに、相対する両側に二つの金環を作った。



それは、壇をかつぐ棒を通す所である。

37:28 その棒をアカシヤ材で作り、それに金をかぶせた。

37:29 彼はまた、調合法にしたがい、聖なるそそぎの油と純粋なかおりの高い香を作った。

燭台とともし火皿は火を絶やさずに燃やすものです。日は聖霊を表しますから、これは常に聖霊様が生きて働いておられることを表します。彼らは神様の命により非常に複雑なものを造りました。それは人々が聖霊様を感じて礼拝するための作業だったのです。

私たちも聖霊様を表しましょう。聖霊様が絶えずいてくださることを、身をもって表したいものです。そのために、日曜の礼拝でもまた平素の生活でも、聖霊様を表すためには労を惜しまない者でありましょう。複雑で骨の折れることであっても、それが聖霊様を表すなら、それを喜びとできるでしょうから、楽しみを感じてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

